

2025 年度医療看護学部就職先部署の教育担当者によるコンピテンシー達成度調査

<調査の概要>

本学部は、看護学生が卒業時に身につけるべき能力として5つのディプロマポリシー（以下、DP）、それらを達成するために必要な知識・スキルとして10のコンピテンシーを挙げています。教育活動の外部評価として、順天堂大学医学部附属6病院の就職先部署に協力を得て、2024年度卒業生179名のコンピテンシー達成度調査を実施しました。

1. 調査目的 医療看護学部卒業生のコンピテンシーに関する達成度を評価する。

2. 調査方法 Google Form によるアンケート調査（無記名）

1) 調査内容

（1）コンピテンシー評価

達成度は5段階で「4. 十分到達していた」、「3. 少し到達していた」、「2. あまり到達していなかった」、「1. 全く到達していなかった」、さらに該当する場面が少なく、評価できない場合を「0. 評価ができない」としました。

（2）卒業生が卒業時まで身につけるべき能力に関する意見等

2) 対象者 2024年度医療看護学部卒業生のうち、順天堂大学医学部附属6病院就職者179名が所属する部署の上司あるいは教育担当者／プリセプター

3) 調査期間 2025年9月1日～9月30日

3. 結 果

1) 回答状況

回答数147（回答率82.1%）

2) 調査結果の概要

（1）コンピテンシー評価 （表参照）

達成度評価5段階のうち、「0. 評価ができない」を除き、4および3を肯定的評価、2および1を否定的評価としました。また、2024年度調査と比較し、その概要を表に示しました。

① 肯定的評価・否定的評価 （）内は2025年度調査値

肯定的評価の割合が高い（70%以上）コンピテンシーは、DPⅠ「豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力」を支えるコンピテンシー1「他者を思いやり慈しむことのできる能力」(87.1%)、コンピテンシー2「教養を身につけた市民として行動できる能力」(73.5%)、3「倫理的課題に対応できる基礎的能力」(74.8%)、コンピテンシー4「人間関係を構築できるコミュニケーション能力」(78.9%)、DPⅡ「個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力」を支えるコンピテンシー5「医学およ

び関連領域の知識を看護に応用できる能力」(70.1%)、DPV「自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力」を支えるコンピテンシー10「生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力」(76.2%)でした。肯定的評価の割合が低いコンピテンシー(50%未満)は、DPIII「関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力」を支えるコンピテンシー8「保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力」(45.6%)、DPIV「グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力」を支えるコンピテンシー9「国際的視野をもって活動できる基礎的能力」(37.4%)でした。

② 2024年度と比較した評価 ()内は2025年度調査値

2024年度と2025年度の調査方法との違いは、質問項目に評価の目安となる具体的なガイドを付記し、評価しやすくした点にあり、10コンピテンシー中9つのコンピテンシーにおいて「(該当する場面が少なく)評価できない」の割合が減少、1つのコンピテンシーは2024年度と同様に0%でした。

10%以上肯定的評価が増加したものとしては、DPII「個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力」を支えるコンピテンシー6「エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力」(65.3%)が11.9%、DPIII「関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力」を支えるコンピテンシー8「保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力」(45.6%)が10.5%増加していました。DPIV「グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力」を支えるコンピテンシー9「国際的視野をもって活動できる基礎的能力」については、2024年度と比較し「評価できない」(32.6%)が22.0%減となり、肯定的評価(37.4%)が10.4%、否定的評価(30.0%)が11.5%と、ともに増加していました、一方、DPII「個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力」を支えるコンピテンシー7「健康レベルに応じた看護を展開する能力」(61.2%)は、肯定的評価が11.2%減少していました。

DP I「豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力」を支える4つのコンピテンシーは、相対的に肯定的評価の割合が高いのですが、2024年度と比較すると肯定的評価の割合が減少しており、特にコンピテンシー4「人間関係を構築できるコミュニケーション能力」(78.9%)は7.4%減少していました。

表 ディプロマポリシーとコンピテンシーの対応及び評価の割合

単位(%) () 内は 2024 年度との比較

ディプロマポリシー		コンピテンシー	肯定的 評価	否定的 評価	評価 できない
I	豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力	1. 他者を思いやり慈しむことのできる能力	87.1 (-3.7)	12.2 (4.1)	0.7 (-0.4)
		2. 教養を身につけた市民として行動できる能力	73.5 (0)	25.2 (4.5)	1.4 (-4.3)
		3. 倫理的課題に対応できる基礎的能力	74.8 (-0.7)	23.8 (4.3)	1.4 (-4.9)
		4. 人間関係を構築できるコミュニケーション能力	78.9 (-7.4)	21.1 (7.3)	0 (0)
II	個人、家族及び地域 社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力	5. 医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力	70.1 (9.2)	29.9 (-6.3)	0 (-2.9)
		6. エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力	65.3 (11.9)	34.0 (-6.8)	0.7 (-5.0)
		7. 健康レベルに応じた看護を展開する能力	61.2 (-11.2)	33.3 (13.2)	5.4 (-2.1)
III	関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力	8. 保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力	45.6 (10.5)	45.6 (4.8)	8.8 (-15.3)
IV	グローバル化が進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力	9. 国際的視野をもって活動できる基礎的能力	37.4 (10.4)	30.0 (11.5)	32.6 (-22.0)
V	自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力	10.生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力	76.2 (7.9)	19.0 (-2.8)	4.8 (-5.0)

小数点以下第2位を四捨五入しているため、個々の集計値の合計は100%とならない場合があります。

(2) 卒業時まで身に付けるべき能力に関する意見等

DPに関連する、あるいはその他の意見等がありました。

① DPⅠ 豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力について 《コミュニケーション》

- ・ コミュニケーション力を身につけると良いと思いました。
- ・ 実習が少ないのはわかるが、もう少しコミュニケーション力や考える力を養えるとよいと思った。
- ・ 困ったときに他者に助けを求められるようなコミュニケーション能力を養ってもらえたらと思います。
- ・ 学生時代には得られる機会に限界があり、入職してからの成長が重要であるとする。その点において、自身の課題を見出す、適切なタイミングで指導を受けるためにも、人間関係を構築できるコミュニケーション能力を学生時代に身につける事が大切であるとする。
- ・ コミュニケーションの点で、患者さんに対して口調が強い、指示的な言葉遣いをしてしまうスタッフがおり実際に患者からのご意見をいただきましたが、これまで一度も指摘されたことがなかったそうです。コミュニケーション力の向上を図る必要があります。
- ・ 患者や同僚看護師とのコミュニケーションの際に自己発言力がある人とそうでない人で指導の介入出来る幅が変わると思います。

《態度・接遇》

- ・ 患者さんに対して丁寧に接しておりとてもよいと思います。
 - ・ 接遇を身につけると良いと思いました。
 - ・ 接遇を身につけていた方がよいと思いました。
 - ・ 言葉遣い、接遇面を身につけていただきたいです。
 - ・ 謙虚さ、誠実さ
 - ・ 社会人基礎力(接遇、マナー、目上のものに対する接し方等)
 - ・ 他者や年上に対する言葉遣いは最低限身につけていた方がよいと思います。
 - ・ 学生のうちに他者や年上の人に対する言葉遣いや接遇は身につけていた方がよいと思います。
 - ・ 看護職以前に、社会人として身につけておいて欲しいこと(目上の人との話し方や態度、挨拶等)近年できないと感じるスタッフが増えているように思えます。
 - ・ 社会人としての当たり前の力が弱いと感じた。社会人基礎力としての考え抜く力が弱いと感じた。
 - ・ ご指導いただいているかと思いますが、このような点はすぐに改善するのが難しいと思うので、特に目立つ子に関しては学生の時点から改善できる様な取り組みをお願いしたいです。
 - ・ わからない事を実施直前ではなく前もって報告・相談することができたらいいと思います。
 - ・ 実践は現場で学ぶことも多いと思います。学生のうちは倫理観や他者(主に同僚看護師や看護補助者)との協働についての気配りや心配りの視点を養っていただけたら嬉しいと思います。
- ### ② DPⅡ 個人、家族及び地域 社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力について
- ・ 看護実践能力として、実習で経験を増やすことが臨床にでたときに役立つのですが、未経験があまりにも多く経験不足を感じます。
 - ・ 病態生理、フィジカルアセスメントについてももう少し知識アップできていると働きやすいのではな

いかと思う。

- ③ DPⅢ 関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力について
 - ・ 看護師が仕事を続けて行く上での社会的な役割をもう少し考えていただきたいです。自分が他者のために貢献することについて、行動レベルまで落とし込んで日々意識して行動して行く力を身につけてほしいです。
- ④ DPⅤ 自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力について
 - ・ 他者の指摘を素直に受け入れ反省し、次に生かす力を身につけていただきたいと思います。
 - ・ 医療の現場で働くということについて人の生死や人生に向き合うという覚悟が足りない印象があります。入職してから学ぶべきことも多いかと思いますが、そもそも医療現場とはどのようなところか覚悟を決めて入職していただきたいと思います。自分の役割を果たすために日々どのように行動するのか考える時間を設けていただきたいと思います。
- ⑤ その他
 - ・ 職場に入職してから病院で医療訴訟等の講義を受けた時に、実際あり得る事例も多く、実際に世の中で起きた内容を具体的に知れたときに身の引き締まることがあった。学生の時にもう少し事例を知れたら良かった。
 - ・ 辞書の引き方を改めてやると良いと思う。デジタルの時代でも医療の辞書を引く機会が職場で多いため。
 - ・ 少し達していたと評価した項目がありますが、支援を受けながら対応する事は、できていました。
 - ・ 評価時期をもう少し早めにしていただきたい。

4. 考察

2024 年度に引き続き、DPⅠ「豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力」の4つのコンピテンシーについては、相対的に高い評価ですが、否定的評価の割合の増加、自由記載のご意見からも、コミュニケーション能力の低下や接遇に関する課題の多さが示され、カリキュラムでどのような対応が可能であるのかを検討する必要があると考えます。一方、肯定的評価の割合が低いコンピテンシー8「保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力」は、肯定的・否定的評価が同率でした。コンピテンシー8では学生が卒業時までには他職種との連携・協働、さらに、それらに関連し看護を発展させる重要性について「説明できる」ことをめざしていますが、説明できない卒業生の存在が推測されます。多職種連携および看護の発展との関連が理解できるような教育が検討課題であると考えます。また、コンピテンシー9「国際的視野をもって活動できる基礎的能力」については、多様な価値観の理解や判断、行動が評価となることをガイドで説明したことにより、「評価できない」との回答が減少し、肯定的評価が否定的評価をわずかに上回りました。しかし、肯定的評価の割合が最も低い状況は変わらず、グローバリゼーションがさらに進展する社会状況を鑑みると、引き続きカリキュラムを見直していく必要があると考えます。

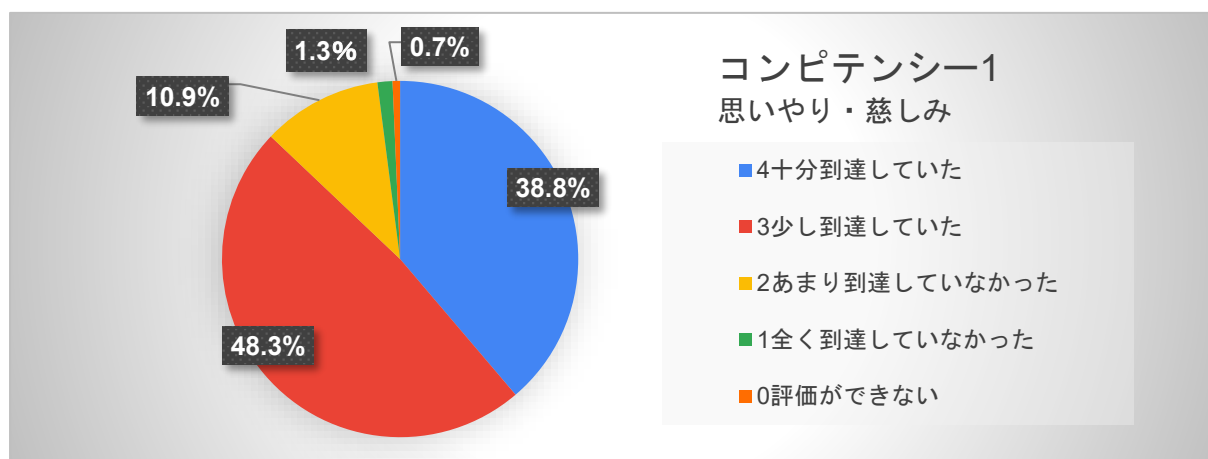
また、2024 年度は6月にアンケートを実施し、早すぎるとのご意見をもとに9月実施としましたが、調査時期が遅いのご意見もありましたので、開催時期については検討いたします。

資料 アンケートの詳細

コンピテンシー1 他者を思いやり慈しむことのできる能力

<ガイド> 他者を思いやり、慈しむことができますか。以下の項目を参考に評価してください。

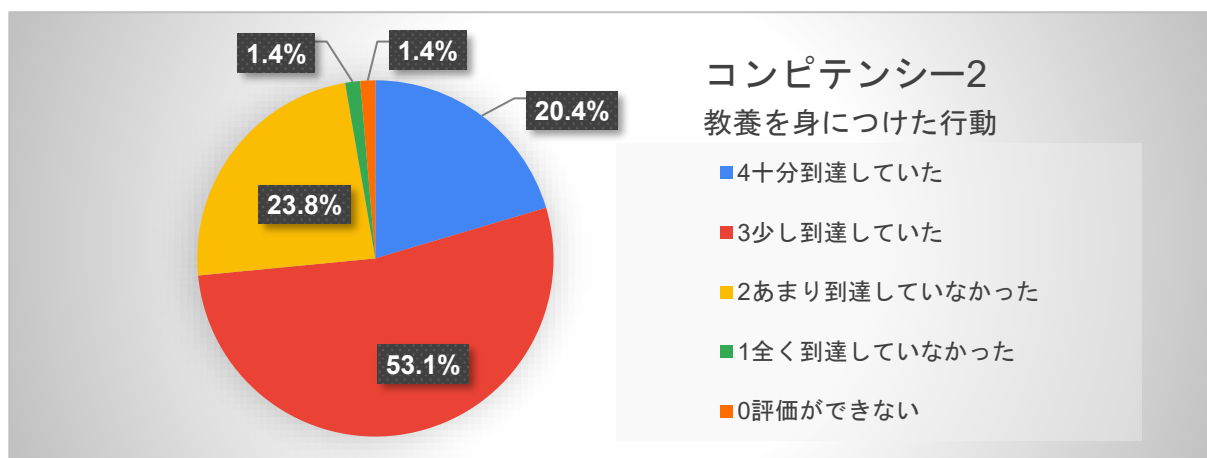
1. 一人ひとりの人間の独自性を尊重することができる
2. 他者の置かれている状況・立場について配慮ある行動がとれる。
3. 他者の経験を共感的に聴く能力を身につけている。
4. 自己と他者の感情を適切に識別できる。



コンピテンシー2：教養を身につけた市民として行動できる能力

<ガイド> 教養を身につけた市民として行動できますか。以下の項目を参考に評価してください。

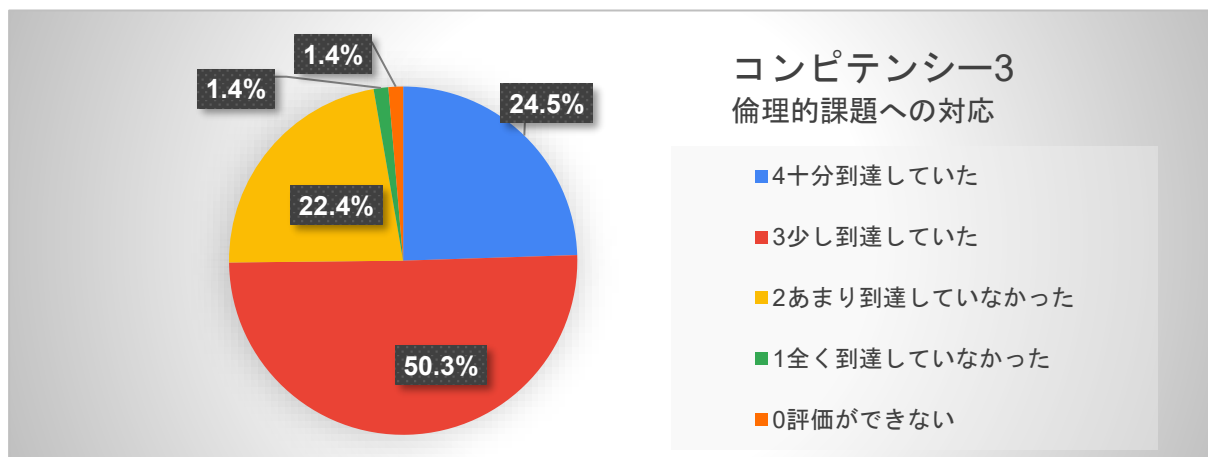
1. 人類の文化、社会と自然に関する基本知識を身につけている
2. 対象の特性や場に応じた適切な表現力を身につけている。
3. 特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
4. 情報通信技術(ICT)を用いて、情報を収集・分析し、適切に活用することができる。
5. 情報や知識をさまざまな角度から論理的に分析し、表現できる。
6. 問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決できる。
7. 自らを律して行動できる。
8. 社会の一員としての意識を持ち、問題解決のために社会の発展に積極的に関与できる。



コンピテンシー3 倫理的課題に対応できる基礎的能力

＜ガイド＞ 社会の変化、科学技術の進歩によって生じる倫理的課題を説明することができ、看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護することができますか。以下の項目を参考に評価してください。

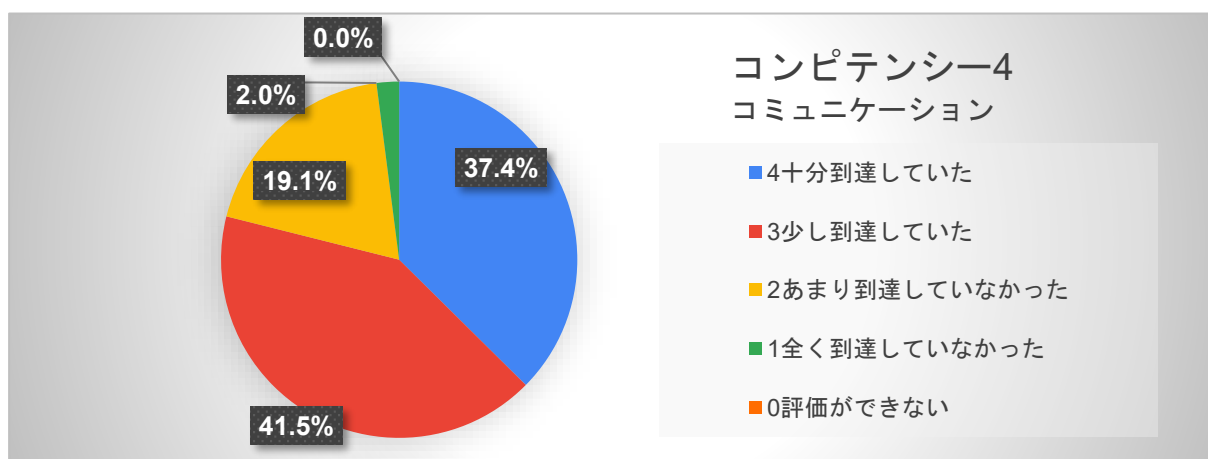
1. 人間の尊厳及び人権の意味を説明することができる。
2. 社会の変化、科学技術の進歩によって生じる倫理的課題を説明することができる社会的、文化的な背景、価値観の多様性を理解し、その差異に関わらず相手を尊重した行動がとれる。
3. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護することができる人類の文化、社会と自然に関する基本知識を身につけている。



コンピテンシー4 人間関係を構築できるコミュニケーション能力

＜ガイド＞ 人間関係を構築するコミュニケーションができますか。以下の項目を参考に評価してください。

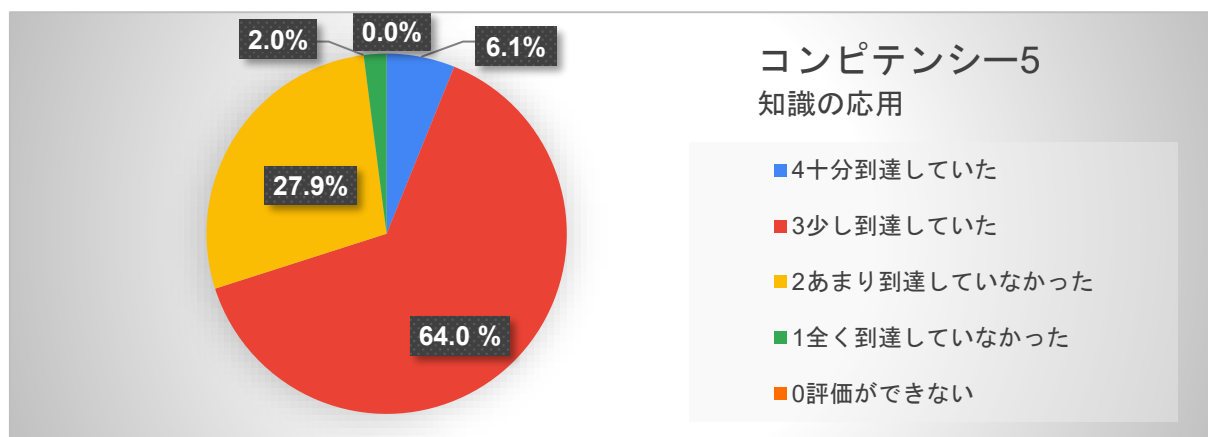
1. 対人関係において、自己の特性に気づき内省できる。
2. 集団の一員として信頼関係の形成、協働的な関係を築くことができる
3. 看護の対象となる人々と援助的なコミュニケーションを展開できる。
4. 看護の対象となる人々と援助的関係を形成できる。



コンピテンシー5 医学および関連領域の知識を看護に応用できる能力

＜ガイド＞ 医学および関連領域の知識を統合し、広く看護に応用することができますか。以下の項目を参考に評価してください。

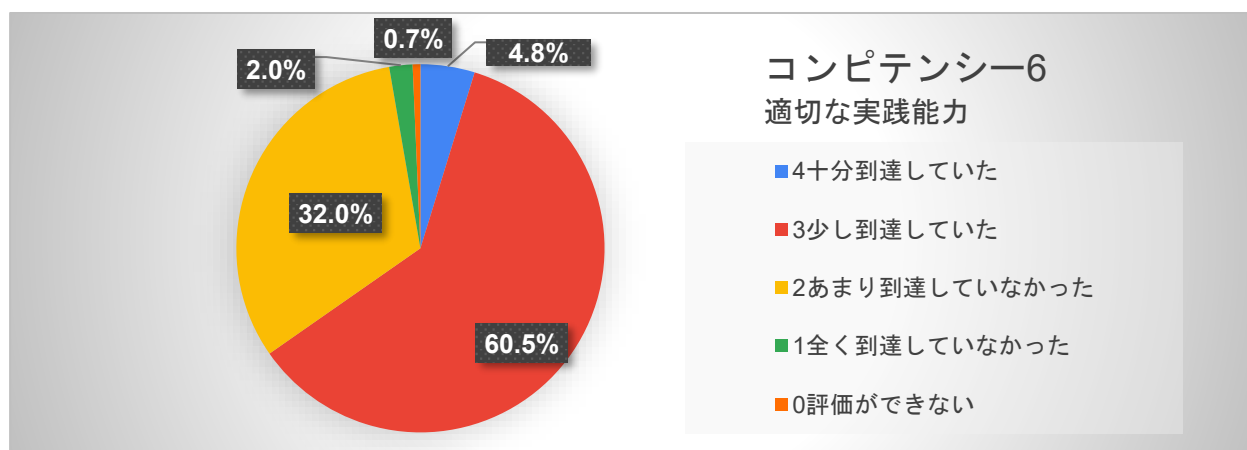
1. 人体の構造と機能を説明できる
2. 成長・発達を理解して看護実践に応用できる
3. 疾病の病態、診断、治療を理解して看護実践に応用できる
4. 人間の心理・行動を理解して看護実践に応用できる
5. 人々を取り巻く環境を理解して看護実践に応用できる



コンピテンシー6 エビデンスに基づいた看護を適切に実践する能力

＜ガイド＞ 看護の課題を解決するために、適切に情報を活用し、様々な場面でエビデンスに基づいた看護を実践し、評価することができますか。以下の項目を参考に評価してください。

1. 健康レベルを成長発達に応じてアセスメントできる
2. 個人と家族の生活をアセスメントできる
3. 地域の特性と健康課題をアセスメントできる
4. 批判的思考や分析的方法、問題解決法を活用して、人々の健康レベルに合った看護計画を立案できる
5. 生活・診療・治療場面に応じた適切な看護・支援ができる
6. 自己の実践に対して適切に評価できる
7. 看護の課題を解決するために、適切に情報を活用することができる。

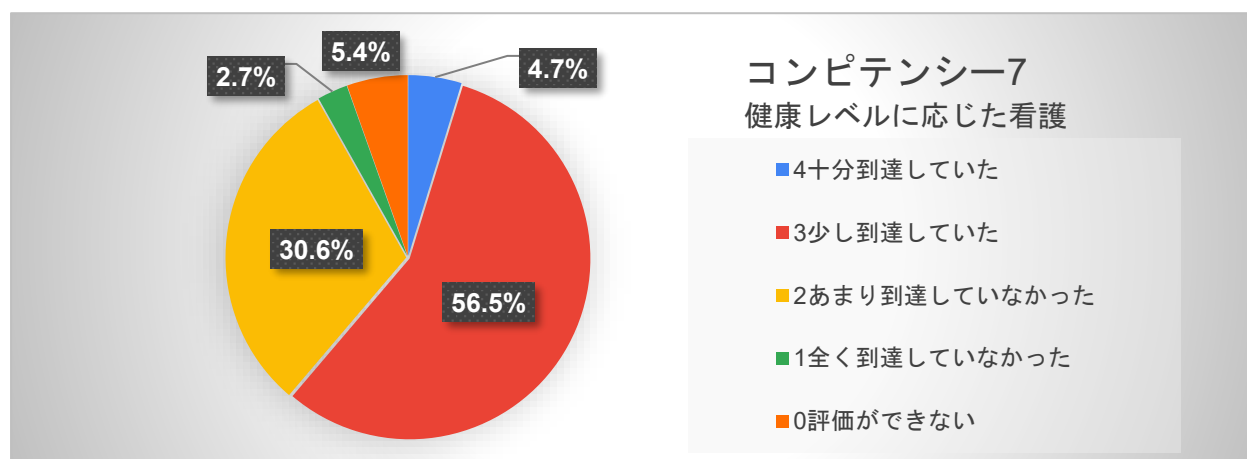


コンピテンシー7 健康レベルに応じた看護を展開する能力

＜ガイド＞ 対象の健康レベルをアセスメントし、健康の保持増進、疾病予防のための看護を自ら探求し実践することができますか。以下の評価例を参考に、病棟の特性を考慮し、評価してください。

参考：病棟特性を考慮した評価例

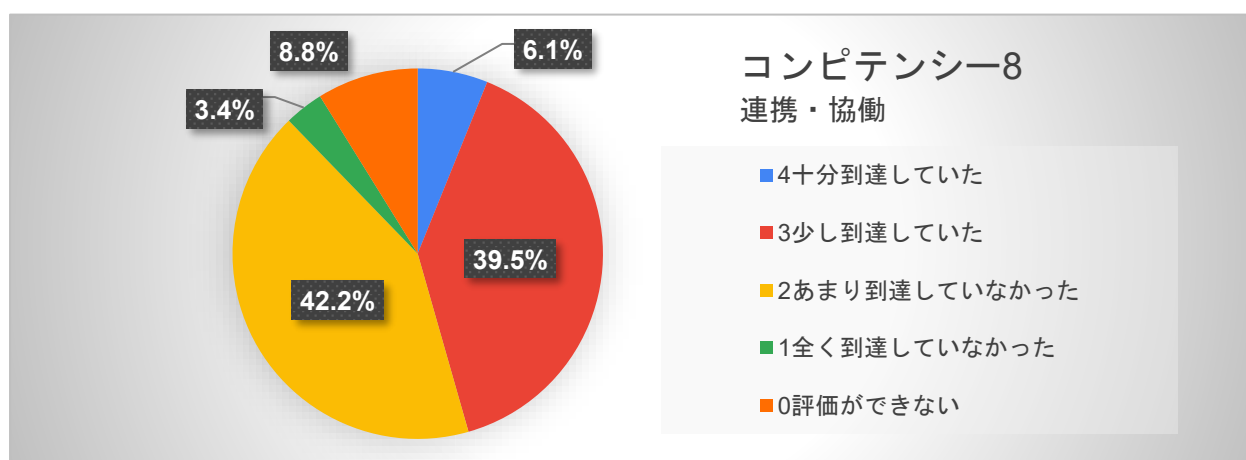
1. 急激な健康破綻と回復過程にある患者の全身状態をアセスメントし、適切な看護が実践できる
2. 慢性疾患および慢性的な健康課題を有する患者と家族をアセスメントし、適切な看護が実践できる
3. 終末期にある患者と家族を全人的に理解し、適切な看護が実践できる



コンピテンシー8 保健医療福祉における他職種と協働・連携する能力

＜ガイド＞ 社会の動向と関連分野の人々との協働・連携のあり方を関連付け、看護を発展させていくことの重要性について説明できますか。以下の項目を参考に評価してください。

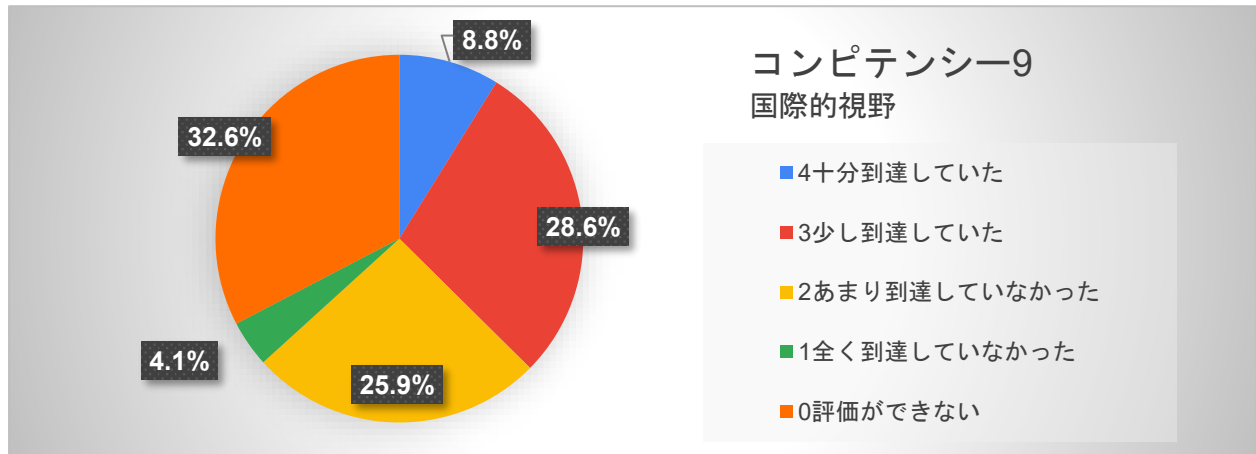
1. チーム医療における看護職及び他職種の役割を説明できる。
2. 保健医療福祉サービスの継続性を説明できる。
3. 疾病構造の変遷、疾病対策、医療対策の動向と看護の役割について説明できる。
4. 看護を発展させていくことの重要性について説明できる。



コンピテンシー9 国際的視野をもって活動できる基礎的能力

＜ガイド＞ 専門職として国際的視野に基づく思考や、さまざまな国籍や文化を持つ人とかかわることができるのか、以下の項目を参考に評価してください。

1. 多様な価値観を持つ人々の違いを理解し、人種・国籍・性別などに関わらず、公平に対応し、行動できる。
2. 世界の動静や社会の変化に関心を持ち、時代の変化に対応した判断ができる。
3. 国内外の看護の動向に関心に向け、看護の役割や課題を説明できる。
4. 国際的視野に基づく思考ができ、さまざまな国籍や文化を持つ人とコミュニケーションができる。



コンピテンシー10 生涯にわたり専門職者として研鑽し続ける能力

＜ガイド＞ 人々の健康上の問題・課題に対する、看護における最新の実践や研究の動向への関心と、看護学の発展を探究していく姿勢を持ち続けていますか。以下の項目を参考に評価してください。

1. 自己の日々の学習を振り返り、課題に取り組むことができる。
2. 自ら学ぶことの重要性について説明できる。
3. 専門職としてのキャリア発達の過程や、生涯学習の意義について説明できる。
4. 人々の健康上の問題・課題に対する、看護における最新の実践や研究の動向に関心を示し、看護学の発展を探究していく姿勢を持っている。

